

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200505
法人名	特定非営利活動法人 わがまま気ままのふくし会
事業所名	特定非営利活動法人 わがまま気ままのふくし会 グループホーム えんち
所在地	〒859-3619 長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷1700番地2 (電話) 0956-26-6177

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】(H21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎神経医療センター・田淵医院・尾崎歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】


佐世保市との境界線に近い海沿いの小高い丘の中腹に民家と変わらない外観で存在するホームである。理事長は設立当初から地域住民に積極的な働きかけを諦めることなく続けられ、現在は地域に欠かせない存在となっている。地区の独居老人や住民の相談役として地域貢献をされている。職員の意欲や向上心のため、県内の研修や九州内・外、茨城県などの研修にも法人が費用の全てを負担して介護の質の向上と職員のリフレッシュに努められており、研修後は職員が職員を育てることに繋がっている。法人としての姿勢にぶれることなく進まれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成し、前回の外部評価での指摘をすぐ取り組まれた。自然災害に対応するマニュアルが完成し職員の意識付けとして使われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については全職員が集合し項目毎に意見を聞き話し合いをして結果をパソコンに入力していく方法で取り組まれた。自己・外部評価の意義を「介護の振り返り」として全職員が理解し更なるサービスの向上に努められている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議で話し合われた事を更にサービス向上に活かし、次の会議で報告されている。自己評価や外部評価も会議で報告されている。町役場の介護保険担当者や地域包括支援センター、地区役員、民生委員などが必ず参加されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に「意見箱」ではなく「ありがとう箱」と書いて設置してある。そして全職員が苦情受付担当者を名札に書いていつでも対応できる姿勢を示されており、家族の訪問時や住民との交流時に、グループホームへの要望などないか機会あるごとに尋ねるよう意識されている。それでも殆ど意見や要望などないが、あればすぐ運営に活かせるような体制作りをされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初と比べると、まるで昔からあったかのように地域の方々との密接な関係が築かれている。年末の餅つき会は、当然のごとく地域住民が道具持参で集まれ、子供から大人までたくさんの方が参加される。町内会に加入され、地区の小中学校との交流や大学生のボランティアなどを常に受け入れられている。又、地域の運動会には団旗を作り参加されている。</p>

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初の理念を見直し「スタッフ、利用者、家族、地域の方々が集っておのあの素晴らしい力と共鳴を生み出す事を目標とする。」とされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に貼られており、理念を職員一人ひとりが理解されて日々の介護の実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初と比べると、まるで昔からあったかのように地域の方々との密接な関係が築かれている。年末の餅つき会は、当然の如く地域住民が道具持参で集まれ、子供から大人までたくさんの方が参加された。町内会にも加入され、地区の少中学校との交流や大学生ボランティアなど常に受け入れられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価の意義は職員全員が理解しており、今回の自己評価については全職員が集合し、1項目ごとに意見を言いそれをパソコンに入力していく方法で取り組まれた。介護の振り返りと理解されており、サービスの向上に努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。前回の会議で話し合われた事を更にサービス向上に活かし次の会で報告されている。評価がある時期は必ず報告をしている。町役場の介護保険担当者や地域包括支援センター、地区役員、民生委員などが必ず参加される。		

グループホーム えんち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域な市ではなく、単独の町であるため利点として、役場担当者との連携は十分できている。入居者の家族や地域住民が、介護が必要な状況の住民のために、ホームへ介護情報を聞きに来られるなど、役場窓口と住民のパイプ役が自然と出来上がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の請求書送付時には「えんちだより」と金銭管理の報告や請求書を送付されている。ホームページも開設され、遠方に住まれている家族から喜ばれるなど入居者と家族への連携を大切にされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、「意見箱」ではなく職員には見えないところを教えてもらうための「ありがとう箱」を置いてある。そして全職員が苦情受付担当者となっており、家族の訪問時や住民との交流時にグループホームへの要望や意見を聞く機会を意識されている。殆ど意見や要望などないが運営に活かせるような体制作りをされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や新規採用などたまにあるが、入居者へのダメージを考慮した対応がされている。1年ほど前に採用された一名以降職員の入れ替わりはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加はかなり多く、県内以外に九州内は当たり前で、広島・茨城・滋賀県など多方面の研修に取り組みられ、研修後は報告し、介護の実践に役立っている。職員のリフレッシュも兼ねており、費用は全て法人の負担とされている。研修で身に付けたことは、一緒に働く中で伝える事ができている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が長崎県グループホーム協議会に、又、地域の協議会の副会長をされており、当法人が主催する研修会には地域の同業者に案内を出されている。東彼杵地区同業者開催の勉強会には職員同伴で参加されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内の宅老所から入居されたり、入居前に何回かは本人同伴で見学や雰囲気馴染んでもらうなどしながら入居されている。家族や本人とゆっくりした時間を過ごしていただきながら生い立ちや生活習慣など本人を取巻く環境の情報収集もしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に入居者の目線で考えるようにしている。季節の祭りごとを思い出すきっかけに、野菜や季節の料理など教えてもらっている。ひな壇を飾りつける時は教えてもらい、支えられることだけではなく、若い職員の役に立っていることを自覚されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者が日頃言葉に表せない意向や思いを把握するには、入浴の支援や夜勤など職員と1対1で話しをするときに何気なく言われたことを、職員間で共有するよう努力されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員一人に入居者一人の担当制を取り入れられている。担当者を中心にケアカンファレンスで職員全体から意見を聞いて介護計画を3ヶ月に1回見直しをされている。</p>	○	<p>日々の記録の中で特に不穏状態の状況を記録するだけでは、解決案が出にくい現状が見られ、不穏が強い時と穏やかな時の本人を取巻く環境の違いを客観的な視点で観察するなど記録の方法を再検討されることを期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月1回の計画見直し以外で、見直しが必要な状況があれば随時見直しをして情報の共有を図られている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の時に家族対応が困難なときには受診支援をしている。本人の要望があればできる限り対応されている。職員の結婚式にサプライズで他の職員と共に車椅子の方も含め入居者全員が参加され楽しまれた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にしており、定期受診、緊急時受診ともに、同行支援を行なっている。定期受診など家族が同行される場合も、職員が同行しており、家族の同行が無い場合の受診後は、その日に家族へ報告をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームで看取りをされたことがある。家族とかかりつけ医や入院できる病院と綿密な連携をとり、必要時に話し合いを持って介護ができる範囲で「看取り」をされている。	○	介護と医療の分かれ目がはっきりせず、その都度話し合いを持たれているが、「看取りの指針」を文書化されることに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が馴れ合いから無意識に入居者の尊厳を損なう言動がないように気を付けられている。他の職員が気が付いた時にすぐ入居者から離して注意し合うなどされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた生活支援は当然のように行われ、職員の都合を押し付けないように、過ごし方の支援をしている。		

グループホーム えんち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備や盛り付け、配膳、後片付けなど職員と協力して役割を持っておられる。健康状態や気分がのらない時など見極めて手伝いをお願いされ、入居者は当たり前のように参加されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。一日2～3人程度の入浴介助をされている。職員とのスキンシップとして捉え大事なコミュニケーションの場として対応されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者本意の暮らし方を検討し、一人ひとりの個性を活かして買い物などに連れて行かれている。町外の催し物に積極的に参加をされており、町外の音楽祭にも出掛けられている。日常生活の延長として気晴らしの支援が多く、入居者も出かけるのを楽しまれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候に応じてほぼ毎日散歩などされている。車椅子や歩行介助が必要な入居者も戸外の空気に当たることを当たり前の支援としている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外は一切されていない。外出や、不穩で歩き回られる入居者がおられるが、常に見守りで居場所確認をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を年2回消防署指導の下に行われている。不審者情報など回覧板で回ってきて気をつけている。近隣住民にも協力の要請もされている。火災や自然災害(台風や地震など)を想定して備蓄をしており、個人情報ファイルを含めた持ち出し品リストを緊急時対策委員会を中心に職員間で話し合いを持ち作成している。今後は、さらに個人情報ファイルに写真を加えるなどの工夫に期待したい。		

グループホーム えんち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当グループホーム内で栄養推進委員会の委員が入居者の栄養状態や水分摂取に関して責任を持つようになり、外部の栄養士に来てもらい勉強をしている。水分摂取もお茶以外を各種用意して、目先を変えた水分摂取を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、入居者の作品や写真が貼ってあり季節が感じられる猫柳、桃の花など生けてあった。生活感あふれる【えんち】としてさりげない工夫が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人の個性が現れており沢山の私物がある部屋や、必要最小限度の物が置いてある部屋など、本人本意の居室とされている。		